

## I 「病理解剖の実際と専門医試験Ⅲ型問題フローチャート作成の留意点」

岩手県立中央病院病理診断センター

八重樫 弘 先生

口腔病理専門医試験のⅢ型問題(剖検症例問題)は我々歯学部出身者のみならず全ての受験者にとって、大きなプレッシャーであろう。即ち、脳を含む全身臓器から病理所見を拾い上げる能力、臨床所見、肉眼所見を加味して病理診断を総合的にまとめる能力、病態や死因を考察する能力が問われているからである。近年はどこの施設でも病理解剖数が減少し、実際に剖検報告書を作成する機会がますます減少していることも要因の一つであろう。また、歯学部等歯科系の施設在籍者にとっては、問題に出るような一般的な症例の解剖を経験する機会がなかなか難しいという現状もある。

今年のセミナーでは、前半で病理解剖の基本的な事柄を概説し、後半では事前に配布した解剖例の資料をもとに少人数グループに分かれてフローチャートを作成し、各グループの発表、discussionを通して留意点を再確認することを目指したい。Workshop形式を予定している。

※参加者にはセミナー1ヶ月前までに資料をCDにて配布いたします。参加者はPC, USBを持参されることを推奨します。顕微鏡の使用はありません。

## II 「口腔の細胞診でわかること」

日本大学松戸歯学部 口腔病理学講座

宇都宮 忠彦 先生

近年の口腔癌による死亡率の増加は、早期発見・早期治療の気運の促進や重要性を増している。また、口腔の腫瘍前駆病変や初期病変についても活発に議論され、その病態についてもある一定の知見が得られている。そのような背景の中、口腔の擦過細胞診も簡便性や非侵襲性、安全性、迅速性などの利点があるため、口腔粘膜疾患の診断に貢献することが期待されている。実際に感染症や炎症性疾患も含め多彩な口腔粘膜疾患の推定診断が可能とされ、病理診断においても市民権を得つつある。一方で、上皮異形成や上皮内腫瘍化では、しばし

ば表層の角化亢進が目立ち、中層～深層の細胞所見の検出が困難なため、真の病態を反映した所見を認めないことがあり、更に乳頭腫、疣贅状癌などの外向性発育を主体とする多彩な疾患が存在し、角化性異型細胞の所見についてしばしば浸潤癌との鑑別を困難にするなどの問題点もある。

本セミナーでは、口腔の細胞診でどのような疾患や病態が把握され、適正な診断が可能なのかを実際の症例を検討しながら、日常の細胞診断に役立つ要点を解説するとともに、前述の問題点や新報告様式に関する議論も鑑みて口腔細胞診の意義や見解について言及する。

\* セミナーでは、実際の組織標本で観察する予定です。

### Ⅲ「唾液腺腫瘍診断の進め方」

九州歯科大学健康増進学講座口腔病態病理学分野

矢田 直美 先生

唾液腺腫瘍は、日常診断業務の中で、口腔粘膜病変と比較すると接する機会が少ない。いざ遭遇すると、多彩な像を呈するため、major な腫瘍でも診断に苦慮することがある。また、唾液腺腫瘍の疾患名は非常に多く、最終診断をするために、どこからアプローチをしていけばいいか迷うこともある。臨床側からは早急な診断を求められ、専門医試験では1症例3分の時間で判断しなければいけないため、限られた時間内での診断が必要となる。

本セミナーでは、唾液腺腫瘍の概説と専門医試験に高頻出する組織型を中心に、実際の症例を用いて、生検および手術検体で、肉眼、組織像のどの部分に着目するのか、特殊・免疫組織化学的染色の選択方法など、診断の進め方について言及させていただく。また、時間が許す限り、細胞診の典型像や腫瘍と間違えやすい腫瘍様病変についてあわせて解説する。

\* セミナーでは、実際の組織標本で観察するため、標本を配布予定である。